

MIDDLE1600_8

1801: ピョトロヴィツェで、プロポリスを紛失したはずだが、違うようだ。

1802: 猫の鳴き声は、平均的にはニャーニャーですね？

1803: ヴォロナ君、熟睡したけりゃ、別室にソファがありますよ。

1804: フェデラーは、極度の怖がりである自分を省みました。

1805: 授業でも役立つウィジェットは、軒並み覚えています。

1806: 錦衣玉食の暮らしは、様々な病気の引き金になりますよ。

1807: ウィッグをつけた女神に会えるなら、毎日仮病を使います。

1808: あのと時墨汁を使ったと、虚偽を述べましたね。

1809: あれ、しゃぶしゃぶの食材は、テーブルに置いたと記憶してたのですが。

1810: ティーヴォリがアリューションへ行き、マルティヌーも付き添います。

1811: グォさんは、里では知られた顔で、皆から挨拶されます。

1812: ヴィヴァルディの四季を、袖が長い黒シャツを着て弾きます。

1813: そのデマの拡散元は、ビューヒェルベルクのネカフェみたいです。

1814: 中国の、ディディクゥアイダって会社の規模は、圧巻です。

1815: デャデュンは、ビューマーから立派な蔵を譲り受けました。

1816: ここから東に真っ直ぐ進むと、プロスクイーリウって町があります。

1817: 無敵に見えるウォジミエシュですが、デバフが効くんですよ。

1818: 一目悪手に見えましたが、窮地をひっくり返す好手です。

1819: キェルツェに住むリヤードフは、狭量ではなく視野が広いです。

1820: ヴェルナーとクェスは気が緩み、スイノプで拉致されました。

- 1821: セミョノヴィチ・ヴィゴツキーは、ピアディーナを^{きら}嫌っています。
- 1822: サンスクリット語^{ごけん}圏^{はたら}で働^{はつおん}き、テョやテャ、デャやデョの発^し音^しを知りました。
- 1823: ガーズィーブルでの結^{けっこん}婚^{なこうど}、仲^{なこうど}人はビューイヤールさんだったんです。
- 1824: 夏^か帆^ほはギリギリになって、パパへのプレゼントを背^せ広^{ひろ}に決^きめました。
- 1825: 渡^{わた}るべからずとの看^{かん}板^{ばん}があるのは、ぬりかべが^で出^でるからのようです。
- 1826: グィディッチオーニは、拒^{きょ}絶^{ぜつ}できない苦^く行^{ぎやう}への恐^{きやうふ}怖^ふで、体^{からだ}が震^{ふる}えます。
- 1827: ビュービュービュービュー鳴^なる風^{かぜ}の録^{ろく}画^がって、やっば^{むずか}難^{がた}しいですかね？
- 1828: あの、このスーツはウォッシュابلだと^{うかが}伺^{うかが}ってたのですが。
- 1829: 先^{さき}程^{ほど}ニュングェですれ違^{ちが}った、艶^{えん}美^びな方^{かた}がお見^みえになってます。
- 1830: 僕^{ぼく}は、ビェラシュニツァに居^き住^{じゅう}する、ジャハンギルと申^{もう}す者^{もの}です。
- 1831: 会^{かい}議^ぎが思^{おも}いの外^{ほか}長^{なが}いのは、きっとフォレスティエがごねてるんでしょうね。
- 1832: 物^{ぶつ}騒^{そう}な酔^よっ払^{ばら}いが闊^{かつ}歩^ぽするゾーンだから、ドパルデューも気^きを付^つけて。
- 1833: ステルヴィオ・ヴェローチェを預^{あず}かったが、ヴィオと^{りやく}略^{りやく}して呼^よんでいます。
- 1834: フォスターは、チョベリグと書^かかれた凡^{はん}例^{れい}を、グラフに追^{つい}加^かしました。
- 1835: グウエインから受^うけた細^こかい傷^{きず}を癒^{いや}すため、病^{びやう}院^{いん}へ行^いきます。
- 1836: ニューディゲイトさんの件^{けん}、そろそろ^{はなし}話^わを進^{すす}めましょ。
- 1837: ペトゥラが禁^{きん}酒^{しゅ}すると聞^きき、即^{そく}座^ざに無^む理^りっしよって言^いっちゃったよ。
- 1838: ミュンヒェンで飲^のんだ紹^{しょう}興^{こう}酒^{しゅ}の味^{あじ}が、忘^{わす}れられません。
- 1839: ブロニェフスキ様^{さま}は、別^{べつ}館^{かん}に案^{あん}内^{ない}させて頂^{いた}きます。
- 1840: 貴^{あなた}方^{しゅぎ}の主義^わは分^{さん}かったので、まずナンディウオー山^{さん}脈^{みやく}を登^{のぼ}るか決^きめましょ。
- 1841: その巨^き軀^{よく}が繰^くり出^だす一^{いち}撃^{げき}に、ポパイの視^し野^やが狭^{きやう}窄^{さく}していきました。

1842: ペトリューラは^{けはい さと}気配を^に悟られず、^{せいこう}逃げることに成功しました。

1843: ウィミョンは^{がくしゃはだ}学者肌だが、^{はくしごう と}博士号を取るつもりは^な無いようです。

1844: ギョルギでしたら、^{あね}ピャニーガの姉の^{ところ ひ}所へ^こ引っ越しました。

1845: ^{おのれ}己を^{こぶ}鼓舞し、^{しょうぶ か}チャヴァリアとの勝負に勝ってくださいませ。

1846: パジャリは^{ゆび}指が^{なが きよう}長く器用なので、^{てきせい}ピアノの適性があるでしょう。

1847: ^{がれき}瓦礫の^{てつきよ}撤去に^{きよ}寄与したのは、^{きよ}ウェスパシアーヌスさんです。

1848: ヴァシーリエヴィチ様の、^{さま}迅速な^{じんそく}処理には、^{しより}頭が^{あたま あ}上がりませぬ。

1849: テョと^よ呼ばれるある^{せんしゅ}選手は、^{かげき}過激な^{れんしゅう}練習に^た耐えています。

1850: ビュザンティオンで、^{つく}ブブゼラを作る^{けいい}シェリーに、^{しめ}敬意を示します。

1851: クェスブでしたら、^{くり}庫裏で^{じゅんび}ビールの準備をしてるはずです。

1852: あー、^{ことば}ファブリツィオの^{ずいしょ}言葉の^{ひん}随所に、^よ品の良さが^で出てますね。

1853: ^{ひゅううつ}彪蔚の^{うつく}美しさを^か描くことにしたが、^{おも}思ったようになりませぬ。

1854: ぬー、^{てんません}伝馬船の^{ゆらい}由来を、^{せつめい}ヴェチェッリオにどう説明しようかしら。

1855: レゾビエが^{つく}作る^{ここんどっぼ}ギュベチは、古今独歩のクォリティですぜ。

1856: ジェディディアは^{ひょうひょう}飄々としてますが、^{ふじゅ}腐儒と^{かげぐち}陰口を^{たた}叩かれています。

1857: トゥーパリエフの^ち知は^{ずぬ}頭抜けており、^{ぶか}部下に^{あい}愛されながらも^{いや}卑しまれました。

1858: ^{せつな}刹那の^{かいらく}快樂に^{おぼ}溺れて^{だらく}墮落とは、^{はいぼく}カスティーリョも敗北ですな。

1859: デュピュイは、^{たびかさ}度重なる^{ばか}馬鹿げた^{しう}仕打ちに、^{むほん}謀反の^{かくご}覚悟を^き決めます。

1860: ギョルギョンは、^{ともだち}ボランティアで^{よろこ}友達ができて喜びました。

1861: ^{かぐら}神楽を^ま舞う^{はな}ドゥウォーキンの^{もはや}華やかさは、^{きゅう}最早レジェンド級です。

1862: ジャングルでは^{かい}貝が^て手に入り^{はい}にくく、^{かかく}価格が^{たか}高くなりがちです。

1863: ああ、ヤギェウォ^{だいがく}大学^{しゅうへん}の周^{のざら}辺^{じてんしゃ}で、野晒しにされた自転車ね。

1864: あのペンションでは刺殺事件^{しさつじけん}があり、まだ客足^{きやくあし}は戻^{もど}っていません。

1865: えー、モーペルテュイって、アーチェリーが死ぬほど下手^しなんでしょ？^{へた}

1866: ビャチェフラフだって馬鹿^{ばか}じゃないし、調^{しら}べても無駄^{むだ}ですよ。

1867: グァンスは己^{おのれ}を統御^{とうぎよ}し、大いなる野望^{おお}を成^{やぼう}し遂^なげました。^と

1868: シャルパンチェって哺乳瓶^{ほにゅうびん}で、授乳^{じゅにゅう}した実績^{じっせき}ありましたっけ？

1869: エツェルの兵^{へい}は、病人^{びょうにん}からも容赦^{ようしゃ}なく略奪^{りやくだつ}しています。

1870: ツァヒャーギーンは、子供^{こども}が産まれそうだからと、チャリで帰宅^{きたく}しました。

1871: ミヤスコフスキーの予知^{よち}は、百発百中^{ひゃつぱつひゃくちゅう}で実^{じつ}に見事^{みごと}です。

1872: やっぱり、ピエトラシャクと出会^{であ}えた縁^{えん}には、感謝^{かんしゃ}ですね。

1873: 螺子^{ねじ}が固^{かた}く、シェヴロレーが力任^{ちからまか}せに緩^{ゆる}めました。

1874: 客^{きやく}に出^だしたジャージャー麺^{めん}に、虫^{むし}が入^{はい}っていたそうです。

1875: ゼルヴァツィウスは、キャベツの葉^はより茎^{くき}を好^{この}んで食^たべます。

1876: 阿弥陀如来に代わる仏^{あみだにょらい}を、私^かはまだ存^{ほとけ}じませぬ。^{わたし} ^{そん}

1877: 五時限目^{ごじげんめ}は座学^{ざがく}なので、宿題^{しゅくだい}のチェックを済^すませましょう。

1878: プラザでは、伸びる杖^のの手品^{つえ}を披露^{てじな}してますよ。^{ひろう}

1879: 水道^{すいどう}が逆流^{ぎゃくりゅう}し、飲料水^{いんりょうすい}の確保^{かくほ}すら厳^{きび}しいです。

1880: 夜食^{やしよく}に、カトリエーティを作^{つく}らせておりますので、母屋^{おもや}にどうぞ。

1881: ブリュッヒャー様^{さま}は、我が社^わのスポンサー、くれぐれも丁重^{ていちょう}にね。

1882: 完璧^{かんぺき}なフュージョンには、ウエンとウォンの存在^{そんざい}が不可欠^{ふかけつ}です。

1883: 雑居ビル^{ざつきよ}から、チェジャのヴォーカルが、雑音^{ざつおん}に混^まじって聞^きこえます。

1884: 蒸らす料理でしたら、中華の真骨頂ですぞ。

1885: ミクシィで集ったミュイと、バッグギャモンでギャンブルし負けられました。

1886: 僕はナイフを研ぎ、ウェイヴのロゴを入れてお渡しします。

1887: 根が張っている植物を、ヘンリーが強引に引き抜きました。

1888: ニカラグアに、段ボールを十箱発送しておかなきゃ。

1889: 神仏を貴ぶことは、大切なのです、ヨゼフィーネ様。

1890: その病状でしたら、牡丹皮で改善すると思います。

1891: ファトゥミルは、労働協約を締結し、アルバイトを始めました。

1892: プロデョーヌのメンバーに、紫蘇を巻いた寿司を贈りました。

1893: メドヴェージェフさん、究極のジェノベーゼができたって？

1894: ディデューは手加減が下手ですから、児戯でも大人げなく潰しちゃいます。

1895: 札付きの不良だったウィルチェックが、今や部活のレギュラーです。

1896: トルクアトゥスの企みを、瞬時に喝破できるとは、流石ですね。

1897: ペツォッタイトを、亡き祖母からの遺物として拝受しました。

1898: ミャオリージェは掘削に慣れず、三日目からサボり始めました。

1899: 供述によると、ミャスィーシチェヴァは、別室で縛られてるとのことです。

1900: リャプノーフは初志を貫き、ボイスチェンジャーの研究を続けます。

1901: 開票の結果、フェーヴルは一票差で落選した。

1902: 薔薇のパフュームには、妖術じみた怪しげな魔力がある。

1903: ブリュギエールなら質疑はバッチリだから、俺らは遊ぼうぜ。

1904: アークェットのペーパーを、派手に誤訳した間抜けは誰だ。

1905: ウォーデルは、^{じぶん ほじょ ぜんてい}自分の補助が前提の^{へきえき}ヘーフェルに、辟易してきた。

1906: ヘズルティンはシャイで、^{ひとまえ すがた み}人前に姿を見せることも^{まれ}稀である。

1907: ハイレゾオーディオコンポが^{こわ}壊れたと、^{じちょうぎみ はな}ディヴォックは自嘲気味に話した。

1908: トゥーシャーの^{そぼく ぎわく}素朴な疑惑が、マニュアルに^{かひつ}加筆させる呼び水となった。

1909: ^{おや じゅばく}親の呪縛にもがき苦しむ^{くる}ヴァーホーヴェンを、^{しょばつ}処罰せんでほしい。

1910: ムツツェンバハーが^{せいぎ と}正義を説き、^{やかま やつ だま}パイパイ喧しい奴らを黙らせた。

1911: ^{きゅうきよぶたい}急遽舞台がキャンセルとなり、^{さま りつぷく ごようす}ウィラ様も立腹の御様子だ。

1912: キャドヴァラダーは、^{かわ はんらん ま こ}川の氾濫に巻き込まれずに^す済んだ。

1913: ティージェンが、オモチャのプロペラを^{まわ}回し、^{あそ}ルービックキューブで遊ぶ。

1914: ^{じゃくてん こくふく}弱点の克服は、^{にりゅう}ブローディが二流から^{だっきやく}脱却するの^{ひつす}に必須です。

1915: ツィットグロッグの^{ぬし}主は、^{きが}飢餓をゼロにする^{かつどう しじ}活動を支持する。

1916: ^{みずぶそく まち}水不足の街で、^{いど ほ}シェミエノヴィチが井戸を掘りあてたとな。

1917: ^{じゅじゅつ いぶか}呪術を訝しむのは分かるが、^{わ ぶじよく ほうとく}侮辱や冒瀆はするなよ。

1918: ^{みにく さげす}醜いと蔑まれても、^{ふ つぶ くせ なお}チューリップを踏み潰す癖が直らぬ。

1919: うーん、^{ぼく}僕らは^くヴァシェやウィザーらと、グループを組めるかな？

1920: イェウパトリーヤのヘウスラーは、^{キンゲンジツチョク}謹厳実直な^{ひとがら き}人柄と聞いちよるよ。

1921: イェヴティッチが^{こうてつ}更迭とは、^{せいてん へきれき}青天の霹靂だったぜ。

1922: ^{ひょうろうぜ}兵糧攻めで、^{わ ぐん せんりよく そ}我が軍の戦力は削がれ、^{さんぼう うずくま}参謀は蹲る。

1923: ジョセッフィの^{ふてぎわ}不手際なら、^{かいぎ はか}会議で諮ることにしてくれ。

1924: セツツアが^{さんし}蚕糸から^{つく}ポロシャツを作ったが、^{ゆる}サイズが緩かった。

1925: ちょっとジェロメウさん、^ごニャキュサ語で「バズる」って^{つた}伝えてよ。

1926: シイルの^{ほうぎよく}宝^ゆ玉が、茹でたパプリカとプラムで^{ちゆ}治癒すると^{つた}伝えた。

1927: なあ、「僕^{ぼく}は親不孝^{おやふこう}でえす」なんて、^{じまん}自慢にやならんぜ。

1928: くうちゃんは、ミヒヤエルから^{えんえん}延々と^{きゅうあい}求愛され、^{ほほ}頬を^{あか}赤らめた。

1929: ヒュームが炊いた^た米^{こめ}を、^{へいぜん}平然とヘルベルガーが^た食べる。

1930: 凹凸^{おうとつ}の^{はげ}激しいオブジェだけど、^{びみょう}微妙に^{あいちゃく}愛着^わが沸くね。

1931: ブラキプテリギウスの^{かせき}化石のチェックなら、この^もパスを持ちなさい。

1932: 芳醇^{ほうじゅん}ペコリーノは、ヘリウオードが^{つか}ヘビロテで使ってる。

1933: ピョクケスは結っていた^ゆ髪^{かみ}を切り、^き短髪^{たんぱつ}に^{もど}戻した。

1934: ここから^{ぎやくてん}逆転するには、^{ぎょにく}チョリソと^{なん}魚肉を何とかしなければ。

1935: 二十歳^{はたち}になったゲーゼの^{ゆめ}夢は、^し死ぬまでに^いグィネヴィアへ行くことである。

1936: 鼓^{つづみ}を鳴らし、^な方々に^{ほうぼう}義賊^{ぎぞく}の^{しんにゅう}侵入^しを知らせた。

1937: 歯止め^{はど}が利かぬ悪鬼羅刹^きの^{あつきらせつ}処罰^{しょばつ}、^{ぜひ}是非とも^{まか}お任せあれ。

1938: 主役^{しゅやく}の木っ端武者^こが、^こ雪月夜^{ゆきづきよ}に^{ゆうき}勇気^だを出し^{おのれ}己^{こぶ}を鼓舞する。

1939: ベトナムでニョクナムが^{ばいばい}売買されており、^かペネロペが^きわざわざ^き買いに来た。

1940: ズィーアンへの^{しゅつちよう}出張^きが決まったが、^{りょひ}旅費^{ねんしゅつ}が^{じばら}捻出できず^{じばら}自腹になる。

1941: 滅茶苦茶だが、サラハスィーは^{もとで}元手の^{ひやくまん}百万^つを、^こギャンブルに突っ込む。

1942: デヤンティは、くも膜下出血^{まつかしゅつけつ}を^{わづら}患ったが、^{しゅじゅつ}手術^{ちゆ}で治癒したよ。

1943: クィリチは祖母^{そぼ}が危篤^{きとく}となり、^{きゅうきよ}急遽^{おもむ}ベリトゥンへ^{おもむ}赴く。

1944: ポピーレッドの^{おうぎ}扇^{おほ}が、ザビエルのトレードマークだと^{おほ}覚えることだな。

1945: ペッパーで^だピリピリした^{やぎゅうえき}パイ^{ゆる}を出した、^{ゆる}柳生^{ゆる}駅のシェフを許さない。

1946: 金春流^{こんばるりゅう}の始祖^{しそ}が^{だれ}誰か、^{やみくも}キュベレは^{しら}闇雲に調べた。

1947: ウィジェラトネは、^{きんぼうげ}金鳳花^{よ な わ}の呼び名が分からず、^{じしょ ひ}辞書を引く。

1948: ウチの店、^{みせ}長年^{ながねん}エゾタヌキのマークが^{めじるし}目印^{えいぎょう}で、^{えいぎょう}営業してたさ。

1949: ベレニエショヴァーの^{たゆ}弛まぬ^{どりよく}努力に、ユギヨムは^{たんぷく}嘆服した。

1950: ザハウィの、テヨとデヨの^つ付く^{ことば}言葉を探^{さが}す^{しゅうねん}執念^{かんぷく}に、感服ですよ。

1951: ^{ひょうばん}評判の^よ良い^{えんじや}演者であったが、ヒョヨン^{きげん}は^{そこ}機嫌を損ねた。

1952: ^{どうろ}道路が^{ほそう}舗装され、ザンボーニは^{いわ}ボジョレーヌーヴォーで祝った。

1953: ジャンボパフェを^{たい}ペロツと^{いぶくろ}平らげた^{うちゅう}ホッペの胃袋は、宇宙なのか。

1954: ^{ひゃくねんまえ}百年前に^{はす}蓮が^{はんも}繁茂し、^{いま}今も^{みやくみやく}脈々と^{せいちょう}生長^{つづ}を続ける。

1955: ^{へいせいじゅうきゅうねん}平成十九年から、フォンツィ^{げかい}は^{けんむ}外科医も兼務しだした。

1956: ^{かいさい}ペリエシャツで^{そうごん}開催された^{しきてん}荘厳な式典に、^{しゅっせき}ギュミルが出席した。

1957: このゲームは^よ良くて^ひ引き分け^わだけど、まだ^いビェリツァのヘルプは要る？

1958: ヴォラピュクを^{まな}学び、^{いんゆ}引喩の^{むづか}難^わしさが分かってきた。

1959: ユグオンなら、^{しつぱい}マウピティでの^{はんせい}失敗を^{ふっかつ}反省し、復活したぜ。

1960: ^{しゃくほう}イヴァシュキエヴィッチは^{かんぱい}釈放され、ポトフとパナシェで乾杯した。

1961: ^{あす}ミリヴォイエヴィッチよ、明日は^{みょうちよう}明朝から、^{しゅっぱつ}トラーヴェミュンデに出発だぜ？

1962: ^{おうべい}欧米との^{ひかく}比較で、^{ぼこく}フィッツァーは^{ぼつらく}母国の没落^{みと}を認めた。

1963: ^{あまた}グァンギュは、^{かんじゃ}メディカルチェックで^{すく}数多の患者を救った。

1964: ^ぎラサルハグエは^{ひと}へびつかい座の一つで、^みラムザタワーから見えますよ。

1965: ^{ぎやくさつ}リヴィウポグロムなどの^{にど}虐殺は、^お二度と^お起こしてはならぬものだぞ。

1966: ^{ゆぎ}湯冷ましで^{ねぼ}グチュグチュとうがいしてたが、ひょっとして寝惚けてた？

1967: ^{はつびやくにんし}ギャニャールで^{びょういん}八百人死んだが、^{きせいちゅう}病因は寄生虫らしいぞ。

1968: ああ、プロヴェンザノは、ジェレンツァーノの墓地に 葬 られたよ。

1969: シェーファーは若 者と 交わり、ヴェラッツァーノは拒否した。

1970: 硫黄の 匂い に、豚はぶーぶー、猫はミャーミャー鳴いてるってば。

1971: スイルギェーイエヴィチュの 探 求 力 は、頭抜けてたからな。

1972: サピエハは寒気でゾクゾクしていたが、律儀に日課をこなす。

1973: デュフレーヌが寝入る時間に、こっそりベランダで煙草を吸う。

1974: ヴィプケは同 姓と遊ぶと、すぐへとへとに草臥れる。

1975: ディンゼオは頑 丈で、ベッヒャーのチョップ程度なら無傷だよ。

1976: まさか下 町の賭場で、ベルシャツアル殿を目撃するとは。

1977: 二足の靴のパティースを、並 行して進めてもらう。

1978: 得意の模写で、セミョーノフを挫折させるとは、あんた只 者じゃないな。

1979: 僕は明日、ベランジェとドゥアベレに発つから、留守を頼むよ。

1980: 玄 米から糠を除き忘れ、思わずデョーと声が出た。

1981: チェルニウツィーで、カンビャーゾに 殴られた打撲が痛い。

1982: 拘 束されたユフィは、湯葉を指に巻いていたら、ユーフォーを見た。

1983: 点字のことで略 式 起訴されたが、友のエールで夜は眠れる。

1984: 汚れた気持ちは、貴族とウェカピポを聴いたら 忘れたよ。

1985: ソルジェニーツィンとテュローは、中 東の歴史をレポートにまとめた。

1986: ジョネットは、過去にホビョト語を習ったが、すでに覚えてない。

1987: アニューシャが憎いとしても、ペタバイトのエスエスディーは欲しいだろ。

1988: やっぱりポッシュは、パリとツォディロを 訪 れることにした。

1989: チャコールグレーのスーツを着た彼女^{き かのじょ}は、無事^{ぶじ}に復職^{ふくしょく}した。

1990: クォールズは、ペルセフォネの悪巧^{わるだく}みを阻止^{そし}すべく、働^{はたら}きかけた。

1991: ちょっとゴタゴタして、ヴォコーダーの音色^{ねいろ}チェックを忘れ^{わす}ちまった。

1992: ファンタジーの世界^{せかい}では、不思議^{ふしぎ}と彫像^{ちようぞう}が切り札^{き ふだ}になる。

1993: 酒豪^{しゅごう}で知られるグウイだが、バーボネラだけは苦手^しである。

1994: ロボットがピポピポと鳴^なり、ユーポはヒェッと声^{こえ}を上げ慌^あてる。

1995: 激怒^{げきど}したペーテャが振^ふるう拳^{こぶし}に当^あたると、死ぬ^しと思^{おも}うぜ。

1996: ビュフォードは、溶岩^{ようがん}に飲み込まれる夢^のを見て、飛び起き^{ゆめ み と お}きたって？

1997: 微笑^{びしょう}を浮かべるピャトノフだけど、あの戯言^{ざれごと}を聞^きけば無理^{むり}はないな。

1998: 君^{きみ}は、キャンクァンジからプライベートジェットで来^きた、ボルジェスだね。

1999: ヴェルディエは意志薄弱^{いしはくじゃく}で、風見鶏^{かざみどり}だと陰^{かげ}で揶揄^{やゆ}されるほどだしな。

2000: 布^{ぬの}を鮮やか^{あざ}に彩^{いろど}るなら、ヴォジーシェクのおしほ^{おし ほ}の教^{おし}えが欲しいな。